

学習指導要領・解説書における「新聞」に関連する記述

(「解説」部分は一部抜粋)

◆高等学校

【総則】

内容→第5節 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

(11) 学校図書館の利活用

解説→各教科・科目等において学校図書館を計画的に活用した教育活動の展開に一層努めることが大切である。例えば、地理歴史科や公民科における各科目にわたる内容の取扱いでは、各種の統計、年鑑白書、画像、**新聞**、読み物、地図その他の資料を収集・選択し、それらを読み取り解釈することを定め、さらに総合的な学習の時間では、調査・研究をはじめとする問題解決的な学習を重視している。

【国語】

<国語総合>

目標→国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

内容→A 話すこと・聞くこと (2) 言語活動例

イ 報告や発表をしたり、それらを聞いたりする言語活動

解説→「報告や発表」では、伝えるべき内容をいかに効果的に聞き手に対して伝えていくかということが重要となる。そこで、報告や発表をするために、「調査したことなどをまとめ」ることを前提としている。調査によって得た情報を無批判に受け入れたり用いたりすることなく、重要度や信頼度などによって分類、整理し、それらを多角的に分析、考察して、出典や拠り所を示しながら報告や発表を行うようにする。その際、学校図書館の地域の図書館などで情報を収集したり、日々の**報道**やインターネットなどを活用したりすることも大切である。

内容→C 読むこと (1) 指導事項

ア 表現の特色に注意して読むことに関する指導事項

解説→文章を読むときには、単に内容をとらえるだけではなく、その文章の「表現の特色」に注意することが大切である。内容についての理解と表現についての理解とが相まって、初めて深い理解に到達する。このことは、生徒の表現の能力の育成にも欠くことができない大切な学習である。ここでの文章の「形態」とは、文学的な文章（詩歌、小説、随筆、戯曲など）、論理的な文章（説明、**論説**、評論など）、実用的な文章（記録、報告、**報道**、手紙など）のことを指す。

内容→C 読むこと (2) 言語活動例

イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。

解説→「メディア」については、次の三つに分けるとらえ方がある。

- ・ **新聞**、テレビ、電話、電子メール、ウェブページなどのような情報を伝えるためのメディア（情報メディア）
- ・ 文字、文、文章、音声、画像、図表などのような伝えたい情報を表現するためのメディア（表現メディア）
- ・ 電気信号を伝える電波や電線、音声を伝える空気などのような表現されたものを伝送するためのメディア（通信メディア）

ここでは、これらのうち、伝えたい情報を表現するためのメディアを取り上げ、「文字、音声、画像などのメディアによって表現された」ものを具体的な対象としている。

「課題に応じて」は、情報を読み取るための前提である。課題を解決するためには、多くの情報の中から必要なものを見だし、その価値などを判断する必要があることをまず示している。情報を「読み取り、取捨選択」する際には、情報の信頼性などにも注意する必要がある。特に検索エンジンなどで見付けることができるウェブページには、新しくない情報、正しくない情報、書き手の主観が入った情報なども含まれている。情報を伝えるためのメディアからの情報を活用する際には、この点が特に重要である。また、情報を「まとめる」際には、引用部分や出典を明示するなど、著作権を尊重することも大切である。

ウ 実用的な文章を読んで話し合う言語活動

解説→「実用的な文章」とは、一般的には、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章である。それには、**報道**や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙のほか、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法律の条文、キャッチフレーズ、宣伝の文章などがある。これらの文章に接して、それぞれの内容を的確に読み取り、表現の仕方について検討して自分の考えをもち、話し合うのがこの言語活動である。

エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

解説→「様々な文章を読み比べ」とは、古典や近代以降の文章を問わず、また、文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章を問わず、多種多様な文章を読み比べることである。読み比べるに当たっては、文章の内容だけでなく、表現の仕方にも着目する必要がある。また、自分なりの感想をもったり、批評したりするためには、思考力や想像力、表現力などが必要である。また、生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで読み比べて話し合ったり、発表し合ったりするなど、学習の形態や方法に様々な工夫を凝らすことも、学習意欲を高める上で大切である。

内容の取扱い→（６）教材に関する事項

ア 教材の選定

解説→「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項のすべてにわたって、生徒の発達の段階や国語の能力の程度、興味・関心などに十分配慮し、適切な話題や題材を精選してバランスよく取り上げることが大切である。例えば、読むことに関する教材の場合でいえば、古典と近代以降の文章の両方にわたって選定する必要がある。近代以降の文章には、詩歌、小説、随筆、戯曲、説明、**論説**、評論、記録、報告、**報道**、手紙など、多種多様なものがあることに留意する必要がある。

<国語表現>

目標→国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

内容→(1) 指導事項

ア 話題や題材に応じた情報を基に、考えをまとめ、深めることに関する指導事項

解説→「話題や題材に応じて情報を収集」するためには、どのような情報が必要であるかを見通すこと、さらにその情報の入手方法についての知識をもっていることなどが必要となる。広くは世界で、狭くは身の回りで起きる政治、経済上の出来事あるいは科学、文化、芸術、スポーツについての知識や話題など、日常の生活には、様々な情報が存在する。これらの情報には、書籍、文書などの印刷物、**新聞**、雑誌、テレビ、ラジオなどのマス・メディアあるいはインターネットなどを通じて接することができる。

情報を「分析」するとは、収集した情報を的確に理解してその要素などを明らかにし、情報の正誤、適否などを吟味した上で、必要なものを適切に選択し整理することである。「自分の考えをまとめたり深めたり」するとは、収集し分析した情報を基にして、自分の考えを適切な形にまとめたり、事実についての認識や事実に向き合う態度を自らの内部に形成したりすることである。

内容→(1) 指導事項

カ 言葉の成り立ち、表現の特色、言語の役割などについての理解を深めることに関する指導事項

(内容の取扱い)

(1) のカについては、文や文章、語句、語彙及び文語の表現法なども必要に応じて関連的に扱うようにする。また、現代社会における言語生活の在り方について考えさせるようにする。

解説→言語生活の中には、様々な種類の文章表現や音声言語表現がある。特に最近では、**新聞**、テレビ、映画、ビデオだけでなく、コンピュータや情報通信ネットワークなども普及し、言語表現の有り様も大きく変化してきている。

内容→(2) 言語活動例

ウ 調査したことを整理して、解説や論文にまとめる言語活動

解説→「調査したことを整理」するとは、収集した情報を無批判に受け入れたり用いたりすることなく、多角的に分析、考察して必要なものを取捨選択し、解説や論文などにまとめる際の資料として活用できるような形に整えることである。その際、必要に応じて、過去の事例や理論的背景などについても調べた上で、まとめる必要がある。

この言語活動では、学校図書館や地域の図書館などで情報を収集したり、日々の**報道**やインターネットなどを活用したりすることも有効である。

オ 図表や画像などを用いた資料を編集する言語活動

解説→「話題や題材」は、身の回りの事柄や社会、自然、芸術などの中から、自分なりの課題意識をもって見付けることが大切である。具体的には、毎日の生活の中で起こる出来事、**新聞**やテレビなどで取り上げられている社会の様々な出来事、人間を取り巻く自然環境、音楽や美術、書道の作品などについて課題意識をもつことによって、様々な話題や題材を探ることができる。そして、それらについて調べたことや考えたことを、「図表や画像なども用いて」視覚に訴えるものに整理することにより、相手により分かりやすく伝わる資料となる。

<現代文B>

目標→近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

内容→(1) 指導事項

ア 文章の構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。

解説→文章の展開の大体が形になって現れている文章の構成を読み取り、それを踏まえて文章の展開をとらえる必要がある。まず、個々の段落に注意して、それぞれの段落のはたらきを確かめ、段落相互の関係を読み取るようにする。例えば、**論説**や評論が、「序論—本論—結論」の三段構成で論述されている場合には、文章のどの部分がそれに当たるかを明らかにし、序論から本論、結論にかけてどのように論が展開しているかを把握する。

さらに、書き手による構成や展開の仕方をたどりながら、その文章の「要旨など」、すなわち書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方など、書き表そうとした中心的な内容を間違いなく把握することが大切である。**論説**や評論などでは、文章の中心となる主要な論点と、具体例、説明、補足、反証などを述べる従属的な論点とがある。要旨をとらえる際に重要なことは、主要な論点と従属的な論点とを判別し、その関係を押さえ、主要な論点を的確に読み取ることである。

内容→(2) 言語活動例

イ 書き手の考えや、その展開の仕方などについて意見を書く言語活動

解説→論理的な文章を読んで「意見を書く」に当たっては、例えば、文章の中で述べられ

ている主張が、確実な根拠に基づいた妥当な推論を伴って導かれているかどうかを読み取り、その適否を判断するなど、文章の内容と、論理の構成や展開との相関がいかにか文章全体の明晰さに寄与しているかなどを考察することになる。このことは、単に文章の内容を読み取るということにとどまらず、書き手の表現意図や読者についての意識が、表現の仕方などにどのように反映しているかについて自分の意見をもつという能動的な学習につながる。意見を書く際には、事実と意見とを明確に書き分けることや、適切な論拠に基づくことなどに注意する必要がある。また、結論の述べ方や、具体的な事例の挙げ方など、文章の構成や展開にも工夫を凝らすことが大切である。

ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりする。

解説→現代社会では伝えたい情報を表現するために様々なメディアが用いられている。そこで、その特色をとらえ、使いこなす必要がある。「文字、音声、画像など」は、「伝えたい情報を表現するためのメディア」を例示している。その「特色をとらえる」とは、個々のメディアとしての文字、音声、画像などの表現の仕方の特色を把握することのみならず、**新聞記事**やテレビのニュース、映画などは、文字、音声、画像などがかわり合って情報を表現していることに気付くことでもある。そのためには、身の回りの様々な表現に目を向けるとともに、これまでの指導で身に付けた能力を総合的に活用する必要がある。「目的に応じた表現の仕方を考え」とは、伝えたい情報を表現するためのメディアのそれぞれの特色を踏まえ、目的や場に応じて、ふさわしいメディアを選択することである。

【地理・歴史】

<世界史A>

目標→近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

内容とその取扱い→(3) 地球社会と日本

地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際、戦争の動向と日本とのかかわりに着目させる。

(内容の取扱い)

ア 急変する人類社会

科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。

解説→ここでは、19世紀後期から20世紀前半までの世界を扱い、科学技術の発達や高度化を背景とした社会の急激な変化を理解させ、それ以前とは性格の異なる新しい社会が出現したことについて人類史的視野から考察させる。鉄道・船舶の改良や自動車の登場によって人や物の移動の範囲が拡大し、移動の速度や移動する量が増すとともに、電信・電話などの通信手段、雑誌等の出版物、**新聞**・ラジオなどのマスメディアという新たなコミュニケーション網が発達したことにも着目させる。

指導計画の作成と指導上の配慮事項→(3) 近現代史の指導に当たっての配慮事項

イ 近現代世界の扱いについて

政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。

解説→近現代世界に対する多角的で柔軟な歴史の見方を養うために、歴史的な文献資料のほか、**新聞**、雑誌、パンフレット、生活用具、写真、映画、ビデオなど多種多様な資料、教材を適切に授業に生かすことが求められる。

<日本史A>

目標→我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

内容とその取扱い→(1) 私たちの時代と歴史

現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在の結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。

(内容の取扱い)

ア 内容の(1)については、この科目の導入として位置付けること。また、近代、現代などの時代区分の持つ意味、近現代の歴史の考察に有効な諸資料についても扱う。

解説→社会や経済が複雑化した現代を生き抜き、よりよい社会を形成していくためには主体性をもって様々な事象と向き合うとともに、実社会における課題を解決してく力を身に付けることが求められる。そのために、近現代の政治・経済・社会・文化などにかかわる事象や課題を取り上げることが考えられる。

人権、環境、情報、国際理解などの現代的諸課題のほか、**新聞**等の**報道**内容など身の回りの話題の中で生徒が興味・関心を持ちやすい社会的事象を取り上げることが考えられる。実施に当たって大切なことは、生徒に歴史の当事者としての意識を持たせることである。生徒の視点や生活感覚に即した疑問を示したり見いださせたりし、結論を一方的に急ぐのではなく、その解決に必要な方法や資料を探らせて、歴史に学ぶことの意義や必要性に気付かせることである。その際、教師の方で扱う資料や事象を絞って対象を焦点化させ、生徒自身が疑問や課題に気付くような指導

上の工夫が求められる。例えば、**新聞記事**にみられる集団間や対外関係上の利害の不一致などに着目させ、その背景を歴史的にさかのぼって調べるためにどんな方法や資料が有効かを考えさせることができる。これをグループで行わせ、生徒相互に考えを伝え合って、自らの考えや集団の考えを発展させることも考えられる。

内容とその取扱い→(2) 近代の日本と世界

イ 近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢

(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。

解説→経済の発展や思想の動向、教育の普及などに見られる時代の動きに着目して、出版、**新聞**やラジオなどのマスメディアの発達を通じて大衆社会の基盤が形成され大衆文化が発展したことを考察させる。

ウ 近代の追及

近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追求し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。

(3) 現代の日本と世界

第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。

ウ 現代からの探究

現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

解説→この中項目は、この科目の学習のまとめとして位置付けられており、導入学習に対応し、これまで「日本史A」の学習において培われた知識や資料の活用の技能を用いて、現在の我々が当面する課題について生徒が自らの考えをまとめ表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせることをねらいとしている。取り上げる主題としては、人権、環境、資源・エネルギーや食料、国際貢献などの諸課題、あるいは直近の**報道**や話題の中で生徒自らが興味・関心や疑問を感じている社会的事象などが考えられる。

<日本史B>

目標→我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって歴

史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
内容とその取扱い→（１）原始・古代の日本と東アジア

原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。

ア 歴史と資料

遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付かせる。

（内容の取扱い）

解説→歴史資料には様々なものがあり、それぞれが特色を持っている。**新聞**・雑誌等を含む文献資料をはじめ、建造物や日常生活用品も含めた遺跡や遺物、絵画や地図、写真等の画像、映画等の映像、それに伝承や習俗、地名、言語など、様々なものが歴史を考察する上での資料となり得ることに気付かせる。そして、今日に残された資料の有効性や限界等の基本的特性を踏まえ、資料から過去の出来事や景観、生活、思想、社会、伝統や文化などを推察させる学習活動を通じて、歴史資料が果たす役割に気付かせ、歴史への関心を高めるようにする。

<地理A>

目標→現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

指導計画の作成と指導上の配慮事項→（２）地理的技能について

地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導する。

解説→地理情報の活用に関する技能については、次のように要約することができる。

- a 地域に関する情報である地理情報にはどのようなものがあるか、諸情報の中から地理情報を選別し、また、地理情報の性格、種類などをとらえること。
- b そうした地理情報はどこで、どのようにすれば入手できるのか、地理情報の所在、収集に関する知識や方法を身に付けること。
- c テレビや**新聞**など、特に地理情報として提供されたものでない情報を、どのように加工、処理すれば地理情報として活用が可能となるか、情報の地理情報化の視点や方法を身に付けること。
- d 地理情報を使って地域性をどう説明、紹介するか、地理情報の処理や表現に関する技能を身に付けること。

※<地理B>にも上記と同様の記載があるので、<地理B>では割愛している。

<地理B>

目標→現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

内容とその取扱い→(1) 様々な地図と地理的技能

地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。

解説→授業に際しては「作業的、体験的な学習」を適宜取り入れることが望まれる。例えば、地球儀を実際に手にしながらの学習、地域の景観を観察したり調べたりする学習、**新聞**に掲載されている国別の記事を集計し図表に表現する学習などを取り入れることが考えられる。

<「地理」「歴史」：各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い>

2 情報の活用と作業的、体験的な学習

2 各科目の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮すること。そのため、地図や年表を読みかつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、画像、**新聞**、読み物その他の資料を収集・選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れること。また、生徒が資料を適切に活用し、諸事象を公正に判断することができるようにする。

【公民】

<現代社会>

目標→人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

指導計画の作成と指導上の配慮事項→

(4) 見方や考え方の育成と学び方の習得及び表現力の育成

エ 的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。

解説→様々な観点から課題を探究する学習を通して、学び方の習得を図ることが求められている。課題の探究の際に用いる資料については、各種の統計、年鑑、白書、**新聞**、読み物、日記、書簡、その他の歴史的文書など様々なものが考えられるが、学校

の図書館や地域の図書館、官庁をはじめ様々なところに資料があることに気付かせるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、目的に応じて情報を検索し利用することができるようにすることが大切である。

<倫理>

目標→人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

指導計画の作成と指導上の配慮事項→

(2) 指導内容の精選と生徒の人生観、世界観の確立のための工夫

イ 先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な先哲の言説等を精選すること。また、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手がかりを得させるよう様々な工夫を行う。

解説→「倫理」の指導における資料は、古典などに親しむ態度や習慣を養い、思想的な文章を読んで理解し、それらの内容に関する自分の考えや意見を発表することができるようにするためにも重要である。文学作品や美術作品、音楽、**新聞**や雑誌の記事、映画や演劇、テレビやラジオの番組、高校生の作文や日記などからも適切な資料を広く求め、生徒の実態に応じて教材として扱う工夫をすることが大切である。

<「現代社会」「倫理」「政治・経済」：各科目にわたる内容の取扱い>

1 情報の活用と作業的、体験的な学習

(1) 情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮すること。そのため、各種の統計、年鑑、白書、**新聞**、読み物、地図その他の資料を収集、選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れる。

【芸術】

<工芸 I >

目標→工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

内容→A 表現 (2) 社会と工芸

ア 社会的な視点に立って、使う人の願いや心情、生活環境などを考え、心豊かな発想をする。

解説→生徒の課題意識や制作の必要性の意識を高めることが重要である。そのためには、使う人の気持ちや状況などについて、資料などを用いて具体的に理解したり、制作のための様々な条件を解決しながら発想することの楽しさを味わわせたりするこ

とが大切である。社会的な視点に立って題材を設定するためには、**新聞**やニュースなどにも目を向け、社会における必要性を考慮して発想することが大切である。

【外国語・英語】

※「外国語編・英語編」には計15回「新聞」が出てくるが、すべて英字紙が対象のため割愛した。

【総合的な学習の時間】

目標→横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自らの課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

内容の取扱いについての配慮事項→

(6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行う。

解説→問題の解決や探究活動の過程では、様々な事象について調べたり探したりする学習活動が行われるため、豊富な資料や情報が必要となる。そこで、学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ、コンピュータ等の情報機器やネットワークを整備することが望まれる。最新の図書や資料、**新聞**やパンフレットなどを各学年の学習内容に合わせて使いやすいように整理、展示したり、関連する映像教材やデジタルコンテンツを揃えていつでも利用できるようにしたりしておくことによって、調査活動が効果的に行えるようになり、学習を充実させることができる。

【特別活動】

目標→望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

内容→2 ホームルーム活動の内容

(2) 適応と成長及び健康安全

ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任

解説→自主的、自律的な生き方は、義務や責任と表裏一体のものであり、社会の一員としてその行為に自己責任が求められることを理解させ、社会的な自立を促すとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度と能力を養うことが必要である。具体的には、ホームルームや学校における生活上の問題、地域や社会の出来事、**新聞**やビデオ等の資料などを取り上げ、話し合いやディベ

ート、パネルディスカッションなどの様々な方法を工夫して展開していくことも考えられる。

高校生の時期は、男女相互の理解を一層深めるとともに、人間として互いに協力し尊重し合う態度を養うことが大切である。その際、家庭や社会における男女相互の望ましい人間関係の在り方や男女共同参画社会などについて、幅広く考えていくことが望まれる。具体的には、例えば、男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、異性交友の望ましい在り方、男女共同参画社会と自分の意識などの題材を設定し、アンケートやインタビューをもとに話し合ったり、**新聞**やテレビ等の資料をもとに話し合ったり討論したりして展開していくことが考えられる。

【情報】

目標→情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

内容→（１）情報の活用と表現

ウ 情報の表現と伝達

情報を分かりやすく表現し効率的に伝達するために、情報機器や素材を適切に選択し利用する方法を習得させる。

（内容の取扱い）

内容の（１）については、情報の信頼性、信憑性及び著作権などに配慮したコンテンツの作成を通して扱うこと。ウについては、実習を中心に扱い、生徒同士で相互評価させる活動を取り入れる。

解説→実習を中心に、適切な例題を通して、コンピュータや情報機器を活用して多様な形態の情報を統合化し、伝えたい情報を分かりやすく表現するために必要な基礎的な知識と技能を習得させる。目的や情報の受信者の状況などに応じて情報の表現技法及び情報機器を選択させたり、問題解決の手順を踏まえながら、あらかじめ作業の手順や素材を選択させたり、生徒自身に検討させたりする活動を取り入れる。同じ情報をプロジェクトなどを使って提示する場合と、ポスターや**新聞**などの紙媒体に印刷して提示する場合とを比較させる活動なども考えられる。

内容→（２）情報通信ネットワークとコミュニケーション

ア コミュニケーション手段の発達

解説→社会への情報伝達については、活版印刷技術の発達により情報の流通量や範囲が爆発的に広がったが、さらにラジオ放送やテレビ放送などの情報通信技術が発達することで、即時性やリアリティ（現実感）が高まったことなどを取り上げる。通信サービスの特徴については、今後も情報通信技術の進展や通信サービスの変化により、コミュニケーションが変化していくことを考えさせる。例えば、1対多などのコミュニケーションは、テレビや**新聞**などから電子掲示板やSNS（Social Networking

Service) などまで広がってきたこと、情報通信技術の進展により個人識別による 1 対 1 のコミュニケーションが重視されるようになってきていることなどについて考えさせる。

内容→ (4) 望ましい情報社会の構築

ア 社会における情報システム

(内容の取扱い)

内容の (4) については、望ましい情報社会を構築する上での人間の役割について生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れる。

解説→情報システムの導入が社会生活にどのような影響を与えてきたかなどを利用者の面から考えさせるなどして、情報システムが社会生活に果たしている役割と及ぼしている影響について理解させる。社会生活に果たす役割と及ぼす影響については、どのような人々にどのような恩恵を与えているか、そのサービスが停止した場合の影響などについて扱い、情報通信ネットワークや**新聞**などを活用して調べ、討議し、発表し合うなどの活動が考えられる。

ウ 情報社会における問題の解決

情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して問題を解決する方法を習得させる。

解説→問題を解決する方法については、問題の発見と明確化、分析、解決策の検討、実践、結果の評価などの問題解決の基本的な流れを理解させ、問題を解決する方法に関する基礎的な知識と技能を習得させる。問題の分析の段階では、問題を解決するために必要な事柄を収集・整理する方法を学ばせる。収集や整理の際、情報手段も活用して多様な活動ができるようにすることが重要である。収集方法としては、Web サイトや**新聞**・書籍からだけでなく、ブレインストーミング、アンケート調査、インタビューなどを行うことが考えられる。

目標→情報メディアに関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

内容→ (1) メディアの基礎

ア メディアの定義と機能

(内容の範囲や程度)

ア 内容の (1) のアについては、メディアが社会や情報産業に果たしている役割について扱う。

解説→メディアを「情報を表現し伝達する手段」ととらえ、メディアには時間を超えて情報を伝達する機能と、空間を超えて情報を伝達する機能があることを理解させる。また、**新聞**、出版、音楽、放送、映画などによる情報の配信方法が変化することによって、情報の受信者による情報の選択に変化が生じたこと、情報の発信者と受信者間の双方向の通信が実現したことなど、社会や情報産業に大きな変化をもたらしていることを理解させる。

内容→ (2) 情報メディアの特性と活用

ア 情報メディアの種類と特性

(内容の範囲や程度)

イ 内容の(2)のアについては、**新聞**、テレビ、電話などを取り上げ、それぞれの情報メディアの特徴や働きについて扱う。

解説→**新聞**、テレビ、電話などを取り上げ、情報メディアの種類、意義や役割及び情報産業や社会に果たしている役割、及ぼしている影響などについて理解させる。その際、情報メディアを同期・非同期、双方向性、選択可能性、情報の受信者の規模などの要素によって分類・整理することができるようにする。

内容→(3) 情報デザインと情報社会

ア 情報デザインの実際

解説→ポスター、**新聞**、雑誌などのデザイン、Webデザインなどを取り上げ、社会や情報産業における情報デザインの具体的な活用状況について理解させる。その際、作者の意図を効果的に伝達するために、これまでに学習してきた情報デザインの要素や構成手法、効果的に情報コンテンツをまとめる制作手法などに関する基礎的な知識と技術が活用されていることを理解させる。

【商業】

目標→商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

内容→(2)「ビジネスの意義や役割について理解させるとともに」

解説→ビジネスの意義や役割について、社会人講師を活用した授業や就業体験などを積極的に取り入れるなど、経済社会とのかかわりの中で、生徒自らに考察させることを通して理解させるとともに、**新聞**、放送、インターネットなどの活用を図り、日ごろから商業の学習活動全体を通してビジネスの諸活動に目を向けさせることが大切である。

目標→ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

内容→ア 指導に当たっては、商業教育全般の導入として基礎的な内容を取り扱うこと。

また、各種メディア教材などを活用し、経済社会の動向に着目させる。

解説→ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てるとともに、より専門的な学習への動機付けや卒業後の進路についての生徒の意識を高めることが大切である。このため、商業教育全般の導入として基礎的な内容を取り扱うとともに、単に知識や技術の習得にとどまらず、**新聞**、放送、インターネットなどの活用、経済活動の具体的な事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察などを通して、経済社会の動向に着目させるようにする。

内容→(2) ビジネスとコミュニケーション

ウ 情報の入手と活用

解説→**新聞**、書籍、インターネットなどビジネスの諸活動に必要な情報の所在について理解させる。また、入手した情報を活用する際の情報の信頼性を見極めることの重要性について、具体的な事例を取り上げて理解させる。

目標→ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得させ、経済の仕組みや概念について理解させるとともに、経済事象を主体的に考える能力と態度を育てる。

内容→ア 指導に当たっては、各種メディア教材などを活用し、経済社会の動向に着目させるとともに、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考えさせること。

解説→**新聞**、放送、インターネットなどを活用し、日ごろから経済に興味・関心をもたせ、経済社会の動向に着目させるとともに、単に経済理論について理解させることにとどまらず、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察させるようにする。

目標→ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済社会の動向について理解させるとともに、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

内容→イ 各種メディア教材などを活用し、我が国の経済の動向に着目させるとともに、適切な企業活動の在り方について考えさせること。

解説→**新聞**、放送、インターネットなどを活用し、我が国の経済の動向に着目させるとともに、企業活動の具体的な事例を取り上げ、適切な企業活動の在り方について討論などを通して主体的に考察させるようにする。

目標→財務会計に関する知識と技術を習得させ、会計責任を果たすことの重要性について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

解説→**新聞**、放送、インターネットなどを活用し、会計情報が企業の経済活動に及ぼす影響について具体的な事例を取り上げ、ケーススタディや討論などを通して、企業会計に関する法規や基準に従った会計処理と監査の重要性について主体的に考察させるようにする。

目標→管理会計に関する知識と技術を習得させ、経営戦略の重要性について理解させるとともに、経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を育てる。

解説→**新聞**、放送、インターネットなどを活用し、企業の経営戦略についての具体的な事例を取り上げ、社会的・経済的環境の変化に対応した経営戦略の重要性についてケーススタディなどを通して考察させるようにする。

以 上